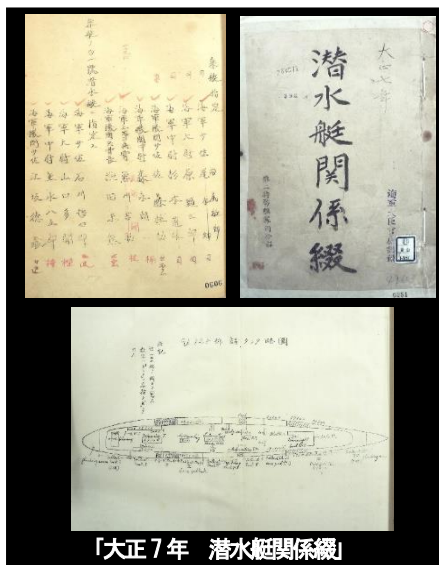


．．．．．「史料のなかの軍人たち —知られざる素顔— 」．．．．．

戦史研究センター史料室では、陸海軍軍人の中から毎月一人を取り上げて、その人物と関連する史料を紹介しています。

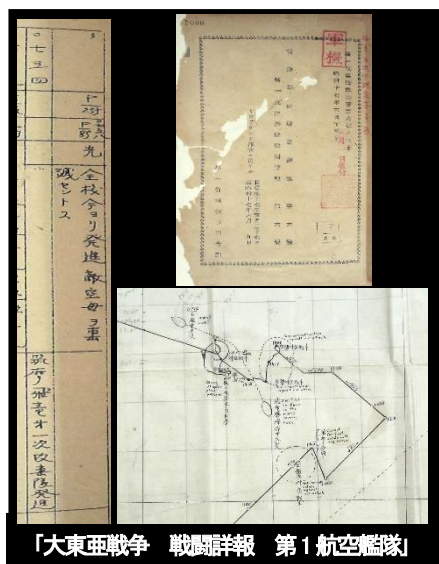
《 海軍中将 ^{やまぐちたもん} 山口多聞 明治25年～昭和17年〔島根〕 》
—ハワイ作戦、ミッドウェー作戦の第2航空戦隊司令官—



「大正7年 潜水艇関係綴」

潜水艦から空母部隊指揮官へ

山口中将は、明治45年海軍兵学校卒業(40期)、大正3年5月から巡洋艦「筑摩」にて第1次世界大戦に参加、7年7月には駆逐艦「樫」にて地中海に遠征、船団護衛作戦に従事、8年1月から約1年、ドイツ潜水艇回航員を命ぜられます。左掲の史料には、当時回航した潜水艇に関係する事項が記されています。10年3月からはプリンストン大学留学、13年12月少佐、海軍大学校甲種学生となり、15年11月卒業(24期)します。その後、軍令部参謀、海大教官(昭和7年12月大佐)などを歴任し、9年6月米国大使館付武官となります。11年12月からは、軽巡「五十鈴」、戦艦「伊勢」艦長などを歴任、13年11月少将、第5艦隊参謀長などを経て、15年1月第1連合航空隊司令官(基地航空部隊)となり、11月第2航空戦隊司令官として空母「飛龍」、「蒼龍」を指揮します。



「大東亜戦争 戦闘詳報 第1航空艦隊」

全機今より発進、敵空母を撃滅せんとす

山口は、昭和16年12月のハワイ作戦、ポートダーウィン空襲、インド洋での英空母「ハーミス」撃沈などで武功を挙げました。一方、日々洋上で過ごす山口は、まめに妻へ手紙を送ります。ミッドウェー作戦出撃前日、17年5月18日には、「貴方こそ本当に私の心中のオアシスです」などとその想いを綴っています。6月5日早朝、「赤城」「加賀」「蒼龍」の三空母は米機の奇襲を受け炎上、7時50分、山口は、旗艦「飛龍」から「全機今より発進敵空母を撃滅せんとす」と発電します。山口は、「判断に迷う場合、他のことは一切考えず真っ直ぐに死に突き進む」という積極思想を持っていました。左掲の史料は、第1航空艦隊の戦闘詳報で、上記戦闘経過などが記されています。14時30分、「飛龍」も被弾、山口は、総員退去を命じ、「どうか仇をとってください」と上司南雲忠一中将への伝言を遺し、6日未明、艦長の加来止男大佐と海に身を投じました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>